

~~~~~多摩川を歩く⑤~~~~~

日 時:2018年2月17日(土) 天候:晴れ一時曇り 20000歩 約14Km

集 合:JR青梅線羽村駅 10時30分

コース:羽村駅→羽村堰→水上公園→宮ノ下運動公園→小作坂下→宮前自然公園→市民球技場→千ヶ瀬河辺下通
→下奥多摩橋→調布橋→鮎美橋→釜の淵公園→柳淵橋→日向和田駅(解散)

参加者:熊坂(L) 小島(SL) 班長=中林 畠

勅使河原 吉越 平石 大平 高橋文 伊藤真 青松秀 菊池 斉藤優 河野 清水正 長井 宮野 松村 落合
市村 高橋紀 丹後 志村 奥村 岩元 計25名

この「多摩川を歩く」シリーズも回を重ね今回が5回目となりました。第1回から前回の4回まではその殆どが河原や土手歩きでしたが、今回からは多摩川も上流域となり河岸段地帯を歩くので、所々で多摩川から離れた山里コースがメインとなりました。羽村駅を定刻にスタートし、羽村堰で玉川上水の開削の指揮をとった玉川兄弟の銅像にご挨拶、彼らの偉業を学びました。宮ノ下運動公園沿いの土手は地元の桜の名所ですが、まだ蕾にもなっていないようで春はまだまだ先のようです。多摩川を望む阿蘇神社を抜けると住宅街となり、暫し川からは一旦離れます。当初の予定では高台の加美緑地でランチでしたが、下見の結果トイレのある近くの小公園で済ませました。圏央道をくぐり市民公園に出ると、遥かな道しるべでもある大岳が前方に見え、回を重ねるごとに大きく迫ってきます。調布橋袂には「雪おんな縁の地」の碑があり、この青梅辺りが小泉八雲の「雪女」の伝説の地であったことを知ることができました。釜の淵公園に架かる2本の橋から見下ろす多摩川も、ここまで来るといよいよ奥多摩に近づいたことが実感できます。ゴールの日向和田駅に着くと、1時間に2本しかない上り電車が迫っていたので、アフター組を残し帰宅組は慌てて乗車。クールダウンも出来ずに立川駅まで行き各自家路に着きました。

<フォトレポート 小島>



かつての“美女軍団”を前にして「釜の淵公園」の鮎美橋をバックに全員集合。



朝の羽村駅。日当たりの良い所で集合待ち。



駅から歩き玉川上水手前の小公園でストレッチ。



シリーズの熊坂し。今日は大きめのサングラス？



近所の親子連れが来たので説明は早めに切り上げ！



羽村堰に佇む玉川兄弟の銅像

●玉川兄弟と玉川上水：人口増加による江戸の水不足解消のため、徳川幕府は工事費用6000両で地元の庄右衛門と清右衛門兄弟に四谷大木戸までの上水開削工事を命じた。しかし途中で工事費用が尽き、幕府に追加費用を要請したが、自分たちで工面し工事を完成させるよう命じられる。そこで二人は手持ち資金と屋敷等を売って3000両を調達、私財を投じて四谷大木戸から虎ノ門までの延長工事も含め、1年半の歳月をかけて完成させた。この功績により「玉川」の姓と帯刀を許され、4年間にわたり200石分の扶持が与えられ、二人が亡くなったあとも上水役は代々玉川家に世襲されていった。



羽村堰広場で先人たちの偉業を学びます。



当時はこのような蛇籠や土嚢で流れを制しました。



この辺りに来ると多摩川の水も澄んでいます。



玉川上水はここから始まり江戸まで通じていました。



宮ノ下運動公園沿いの土手は桜並木が続いて春は花見客で賑わう場所です



ここから阿蘇神社の裏参道に入ります。



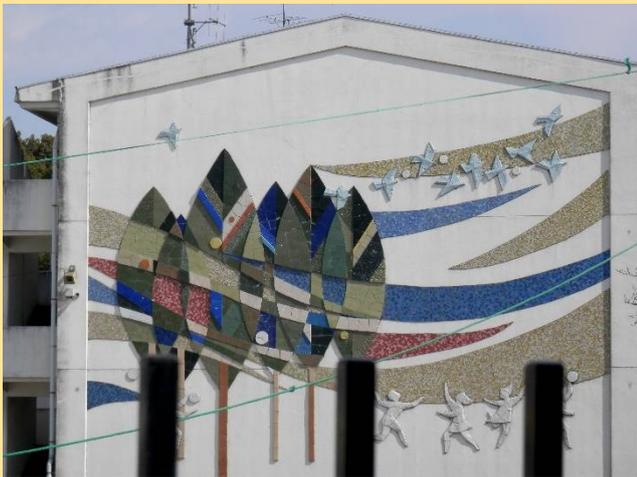
信心深い方が代表してお参りを。お賽銭入れた？



境内で小休止。ここでチョコやアメタイムも？



裏から入り表参道から出るいつものパターンです！



羽村西小の校舎の壁には素敵なレリーフが。



その先の小道には綺麗な竹林がありました。



小作坂下。交通量の多い交差点。



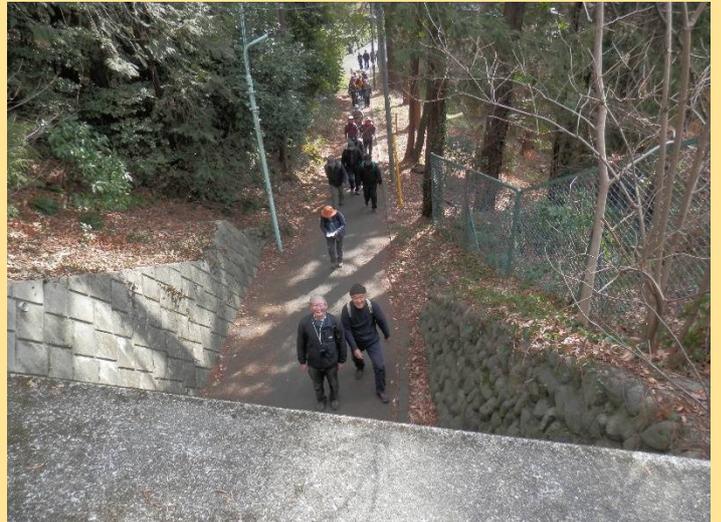
吉野街道とも交差します。



予定場所を変更しトイレのある小公園でランチタイム。親子連れもいましたがシニアパワーに退散？（冗談）



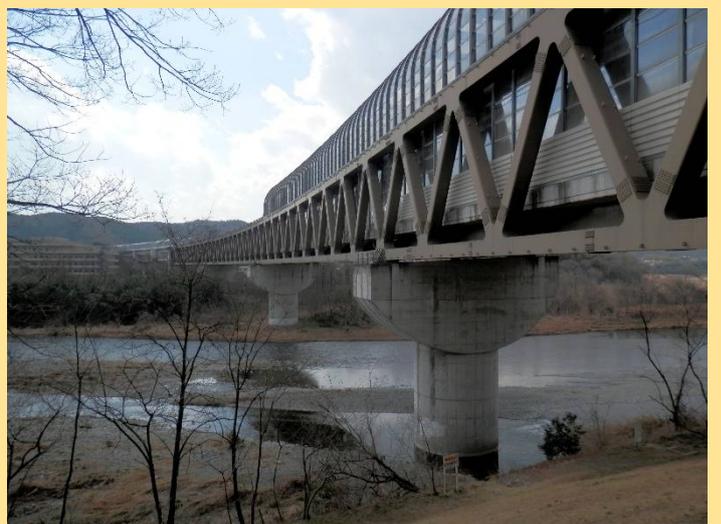
食後は街道から外れ松本神社の前をスルー・・・



杉林の裏参道を上ります。（レポートの巨匠二人も並んで）



下見の時にはここでランチタイムとしました。



多摩川を跨ぐ圏央道。上り下りの2階建設計です。



「多摩川を歩く」の守護神の大岳を望む。



市民球技場。寒々とした雰囲気ですが・・・



ショートカットで土手を直滑降！足大丈夫？



暖かな陽射しで気温も上がってきた川沿いの歩道。



多摩川の流れと前方に大岳を眺めながら・・・



住宅街を抜けここで千ヶ瀬河辺下道へ上がります。



ここに何故か「雪おんな縁の地」の石碑が。



青梅市なのに「調布橋」とは・・・何で？

●雪女：小泉八雲の「怪談」の中にある短編。あらずじは、猟師の茂作と己之吉親子が山小屋で一夜を明かしていたところ、現れた女が茂作を凍らせ、己之吉の命もあわやというところ、このことを他人に話すと命がないと言い去った。一人になった己之吉の元にある日一人の女が訪れ一晩の宿を求めてきた。名をお雪といい、己之吉はこのお雪が気に入って嫁にとり一緒に暮らすことに。ある吹雪の夜、酒に酔った己之吉はお雪に茂作が亡くなった夜の事を話してしまった。己之吉は「あの時の女はおまえにそっくりだった」というと、お雪は自分がその時の雪女だったと告白。子供たちが居なければ命をとるところだが、この上は子供たちの面倒をみてやって下さいと言い残すと霧となって消えてしまい、二度と己之吉の前に現れることはなかった。※この話は怪談の序文に、八雲の家に奉公に来ていた西多摩郡調布村の親子が、地元伝説として話してくれたと明記されている。この調布村が現在の青梅市付近にあたるのでこの場所に石碑が建てられた。当時は山奥でかなりの豪雪地帯だったようです。



調布橋の袂で暫しマッタリ。



雪女の霊(?)がついて来ないようにリーダーも速足!



雪女大歓迎だが家には一人居るからなあ!(ホント?)



その名も優美な鮎美橋。白い斜張橋です。(揺れる~!)



習性で橋を渡るとつい下を覗きたくなる!



ついでにカメラも構えたくなる?



川の中に妙な形の石が二つ...



集合写真を撮り釜の淵公園内に行く。



この公園に架かるもう一つの橋が柳淵橋。これを渡り対岸へ・・・この橋もアーチ状の綺麗な人道橋です。



駐車場横でトイレ休憩。ここまで予定よりやや早め。



公園を出て吉野街道の万年橋を横目に天ヶ瀬通りへ。



皆さんが見ているのは「男井戸女井戸」（おいどめいど）



右の男井戸は水が枯れていた・・・なぜか妙に納得！

●男井戸女井戸：昔弘法大師が諸国巡行されていたある日、大柳にさしかかりひどく喉が渴いたのでそばの農家を見つけ「旅の者だが水を一杯くださらないか」と百姓夫婦に頼んだ。夫婦はそりやあ気の毒だ「ちょっくらまってくださいえ」といい、手桶を持って下の畑の方に下りて行ったがなかなか戻ってこない。二人はかなりたって玉の汗を浮かべながら戻って来た。「さあたくさん飲んでくださいえ」とヒシヤクを差し出した。聞くとこの辺には井戸がないので川まで行って汲んできたとのこと。「そうだったのか、わざわざ私のために・・・」大師は優しい夫婦の心に感動した。そして畑の隅に行くと、持っていた杖をスポリと土につき立てた。するとホコホコと澄んだ水が湧きだした。そのそばにもう一カ所つき立てると、そこからもホコホコと水が湧きだした。「男の井戸と女の井戸じゃ。これからも仲良く暮らしたさなれ」そういうと大師は何処へともなく立ち去っていったという。

(青梅資料館HPより抜粋)



この坂は下見時にはかなりの残雪で滑り気味でした。



杉の花粉がスタンバイ！もうすぐ最盛期を迎えそう。



この辺りも一面雪景色でしたがすっかり消えました。



対岸の山の斜面にはまだ雪が残っているようです。



日向和田駅に到着。今頃になってまた青空が広がってきましたが皆さんお疲れ様でした！



※今日は下見時よりも早めに駅に着くことができました。一時は黒雲が覆う場面もありましたが、風も弱く絶好のウォーク日和に恵まれました。参加者もやや健にしては多い25名となり、終始笑いの絶えない一日となり、皆さんも奥多摩の自然を楽しめたのではないのでしょうか。その証拠にアフターには19名が参加、“グリコ並み”に一日で二度楽しめたようです。多摩川も今後は更に奥深くなり、帰りの足が遠くなりますが、最後まで頑張ってお楽しみください！

←アフター組の影も長くなった無人の日向和田駅。